

# 子どものケガを予防！

## 子どもの安全対策委員会

秩父市では、世界基準の安心・安全なまちづくりを進めるため、セーフコミュニティの国際認証取得に向けた活動を推進しています。今回は子どもの安全に対する具体的な取り組みを紹介します。

秩父市の救急搬送データをみると、未就学児童は転倒・転落により搬送されるケースが多いことがわかりました(表1)。

表1 子ども(0歳~6歳)の負傷の原因

	鋭利なものとの接触	挟まれ・巻き込まれ	誤嚥による窒息	衝突・接触	転倒	転落	その他	不詳	合計
公衆出入場所	0	2	1	3	8	17	3	1	35
教育施設(幼稚園等)			1		1	3			5
商業施設(スーパー・コンビニ・量販店等)					1	4		1	6
余暇・スポーツ施設				2	4	6	2		14
公共交通(駅・電車・バス等)		1			1	1			3
その他		1		1	1	3	1		7
住居	6	7	7	8	11	24	10	3	76
自宅(屋内)	6	5	7	8	9	18	10	3	66
自宅(屋外)		2			1	6			9
知人宅(屋内)					1				1
道路・駐車場		1			3	1	1		6
不詳								1	1
合計	6	10	8	11	22	42	14	5	118

出典：救急搬送データ

### リズム遊びの復活

そこで、対策委員会から「リズム遊び(体幹トレーニング)」(写真①)の復活を提案しました。リズム遊びは、20年ほど前

にはどの市立保育所でも行われていましたが、教えられる保育士が入れ替わるとともに、行われなくなっていました。「リズム遊び」はリズムに合わせて動物の動きなどをまねた体操を行うことで、遊びながら体幹とバランス力が鍛えられ、転倒予防につながります。昨年から日野田保育所でも取り組みを始め、今年度から全市立保育所で実施しています。実際に、姿勢が良くなったり、ふらつかなくなったりする効果が出ています。

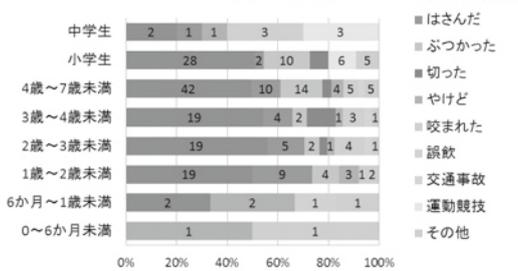
### 家庭内でのケガ

対策委員会ではより詳しい未就学児のケガの実態を把握するため、市立保育所の児童を対象にアンケートを実施しました。

この結果、乳幼児はやけどや転落により、重いケガに至るケースが多いことがわかりました(図1)。

図1

年齢別のケガの種類(受傷者=265人)



出典：秩父市子どものケガ・事故に関する調査



写真① 日野田保育所でのリズム遊び

### 学校内でのケガ

今後、アンケートの結果をふまえたパンフレットを作成し、保健センターなどで配布する予定です。

小中学校内でのケガも多く発生しています。「インターナショナルセーフスクール(ISS)」のモデル推進校である秩父第二中学校区の3校(第二中、花の木小、南小)では、児童・生徒による安全マップの作成や安全点検など多くの活動を行っています。例えば、運動会において、学年種目や集団競技など、大人数での競技はケガが発生しやすいため、競技の人数を調整するなどの工夫をして、ケガ予防を推進しています。「ISS」活動については、今後詳しく紹介します。

問 危機管理課 ☎22-2206



写真② 1段目の人数を増やしての組体操